

インパクトコンソーシアム  
データ・指標分科会 第3回DM会



# 積水化学のインパクト加重会計

積水化学工業株式会社  
経営戦略部 IRグループ

2025年2月20日

# 「サステナビリティ貢献製品」と、その財務・非財務成果指標

## サステナビリティ貢献製品とは

- 2006年「環境貢献製品」からスタートした独自の評価・認定制度
- 自然環境に加え社会環境の課題解決まで対象製品を拡大
- 様々なバックグラウンドをもつ社外アドバイザーにより透明性を担保
- ビジネスモデルにおける正のアウトプットとしている

### 「地球環境の向上」に貢献



### 自然環境対象のサステナビリティ貢献製品の認定基準

課題カテゴリー、解決に資する対応方法ごとに定めた認定基準にもとづいて、認定の判断を実施しています。

#### カテゴリー

GHG排出量削減	汚染の防止
廃棄物削減	生物多様性の保全
原材料削減	防災・減災
節水・水循環	中間素材・資源類

### 「世界のひとびとの暮らしの向上」に貢献



### 社会環境対象のサステナビリティ貢献製品の認定基準

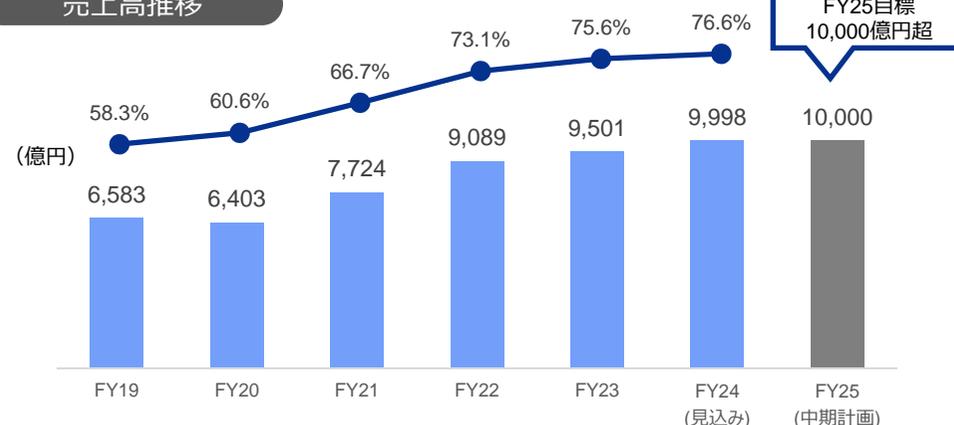
案件ごとに際立ちの加点要素を検討し、貢献度の高さを判断して認定しています。

#### カテゴリー

健康寿命の延長
社会インフラの強靱化
暮らしの安全性と災害耐性強化

## 財務・非財務成果指標

### 売上高推移



### 企業活動のGHG排出量と、サステナビリティ貢献製品によるGHG排出削減



### 2023年度 分野別GHG排出削減貢献量

事業分野	CO <sub>2</sub> 削減貢献量 (千t-CO <sub>2</sub> )
エレクトロニクス	608
モビリティ	4,376
住宅	1,163
インフラ	535
その他	198
合計	6,880

※サステナビリティ貢献製品によるGHG排出削減貢献量の算出については、比較対象となる汎用製品を設定し、LIME2の考え方を活用した計算システム「MILCA」によって対象製品との差分を削減貢献量として算出。

## インパクトアセスメントによる経済価値換算

- サステナビリティ貢献製品を、比較対象製品（同じ機能単位の主流な製品）と比較
- ライフサイクル（原料、輸送、製造、使用時、廃棄段階）での環境負荷の軽減分（+）、環境負荷（-）を把握
- LIME 2（および計算システムMiLCA）を活用し経済価値換算

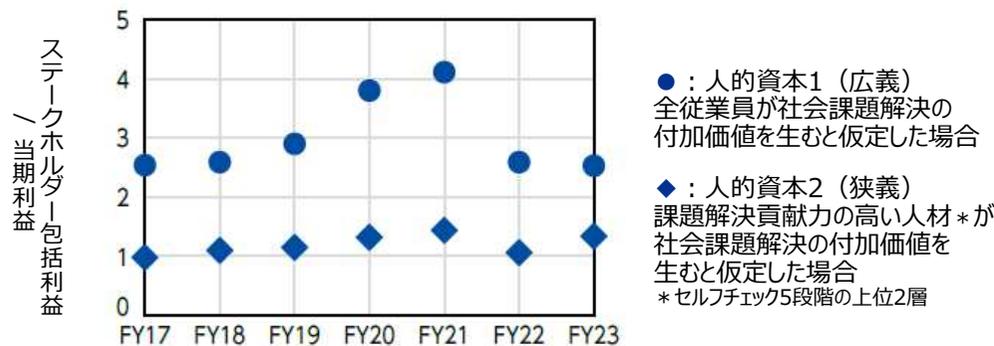


LIMEの概念図と評価対象範囲

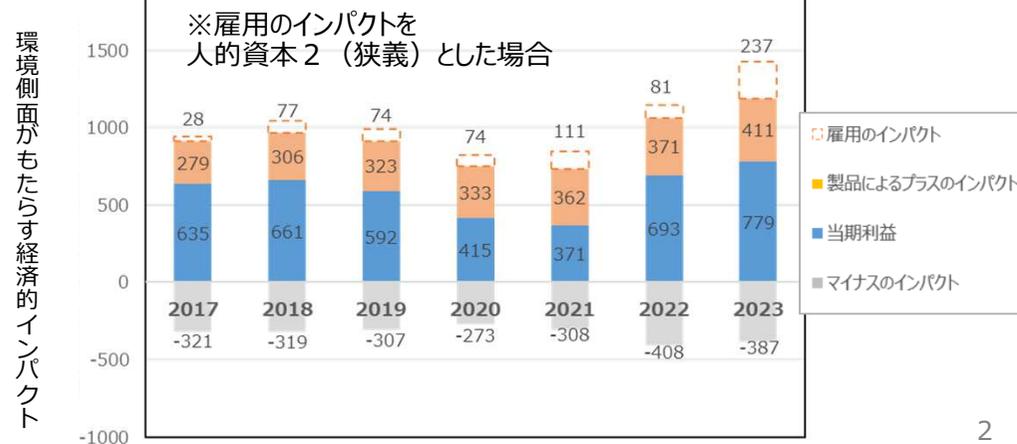
## ステークホルダー包括利益

- ステークホルダー全体に与えるインパクトを貨幣価値にして可視化
- 当期利益 + 非財務価値の正のインパクト - 非財務価値の負のインパクト

当期利益に対するステークホルダー包括利益の比率



ステークホルダー包括利益の内訳



環境側面がもたらす経済的インパクト

※雇用のインパクトを人的資本2（狭義）とした場合



スライドに記載されている計画、見通しなど歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいて作成されております。様々な要素の変化により、大きく異なる結果になりうるものであることを、ご承知おき下さい。